

—生きることは分かち合うこと、弱者と—

PHD LETTER

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

PHD LETTER
Volume

157

2024.12

公益財団法人PHD協会



個人情報保護の為、
一部内容を伏せて掲載しています。
ご了承くださいませ。

Contents

- P.2 ウクライナ避難民とつくるUKRAINE DAY イベント報告
- P.3-4 PHD Movement vol.39
- P.5-6 2025年度第41期ネパールからの研修生紹介
- P.5 ウルゲンさん
- P.6 ルビーさん
- P.7-10 2024年度第40期研修生レポート
- P.7-8 チャチャさん/インドネシア
- P.9-10
- P.11-12 居住支援事業報告
- 国際協力・交流シェアハウス「みんなのいえ」便り
- P.13 次代を担う青少年がネパール及び国内で国際感覚を養うための育成事業
- 日々是東奔西走
- P.14 PHD活動紹介 2024年7月～2024年10月
- P.15 PHD News



PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

公益財団法人PHD協会

PHD運動とは1962年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇医師の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のために使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげ、平和(Peace)と健康(Health)を担う人づくり(Human Development)をすすめ、共に生きる社会をめざし、1981年に今井鎮雄(初代PHD協会理事長)と共にPHD協会を設立しました。

PHD LETTER 157号

発行：公益財団法人PHD協会
住所：〒653-0836 神戸市長田区神楽町3丁目7-4
電話：078-414-7750
FAX：078-414-7611
E-mail：info@phd-kobe.org
URL：http://www.phd-kobe.org/

表紙写真/ネパール・カトマンズにて聴覚障害のある方がオープンしたカフェで交流会をした際の様子
(手のポーズは手話で「I LOVE YOU」を表現している)

温故知新 岩村語録 その29

～「援助」は「侵略」に变身～

大切なことは、お金などの物、時間、技術・・・いずれにしても、自分の余った部分を人に分け与えるというのではなく、自分自身の10%を意識的に切り捨てて、平和と健康と人間作りのために捧げることだと思います。

(毎日新聞 1981年6月13日掲載「ニュースの顔」)

1981年の岩村先生のインタビュー記事。「余った部分」ではなく「意識的に切り捨てる」、PHD運動で提唱されている行為の本質がここにあると思う。厳しい要求でもあるが、戦争という圧倒的な暴力を前にして、この積み重ねの重要さを思う。(さ)





UKRAINE DAY

開催しました♪

9/Sun
29

11:00-17:00

「ウクライナ避難民とつくるUKRAINE DAY」を9月29日に神戸市三宮の東遊園地にて開催しました。兵庫県のみならず大阪府や京都府からも避難民が集い、講師となり、パフォーマーとなり、観客となり一緒にイベントを作りあげました。伝統的な装飾芸術を学ぶペトリキウカ塗りや花冠作りのワークショップ、ウクライナのお守りであるモタンカ人形や雑貨などハンドメイド作品も販売しました。パフォーマンスでは、バレエや民謡、コンテンポラリーダンス、民族舞踊を披露しお越しいただいた300名ほどの方々にウクライナの芸術や音楽を楽しんでいただくことができました。最後は日本ウクライナ文化交流協会の方々をお招きし、支援活動や現在

のウクライナ情勢について語っていただきました。ウクライナの方々が自国の文化を思いきり表現し誇らしげに1日を過ごしてくれたことが何よりの成果だったと思います。あの日感じた連帯感は私たちを当事者に、共に生きていく人にしてくれたと感じます。長引く日本での避難生活をウクライナの方々が力強く歩んでいけますように。

居住支援担当 田村華奈=文

※ハンドメイド作品の売上は全てウクライナ支援の団体に寄付いたしました。
※本事業は（公財）兵庫県国際交流協会ウクライナ避難民地域共創事業助成制度による助成を受けて実施いたしました。



みんなで輪になって踊りました！



ウクライナ人スタッフ オクサナさんのコメント



この日は、ウクライナから避難された方々やその家族、多くの日本の友人が集まり、温かい雰囲気の中で友情を深めました。ウクライナの歌や踊りが披露されるたびに、参加者の顔には笑顔があふれ、懐かしさと誇りに満ちた瞬間が多く見られました。

また、日本の方々からもたくさんの励ましの言葉をいただきました。皆様のサポートは、私たちウクライナ人にとって大きな心の支えとなっており、このイベントが両国の友情と理解を深める大きな一歩となったと確信しています。私たちウクライナ人にとって、日本でこうしたイベントが開催されることは、自分たちのアイデンティティや文化を維持し、次の世代に伝えていくためにも非常に重要です。「ウクライナの日」の意義を改めて実感しました。皆様のご支援に心より感謝申し上げます。



ネパールから聴覚障害のある研修生を招聘する試み ～Living is sharing（生きることは分かち合うこと、弱き者と）への挑戦～

心 細さを感じた一幕

あるイベントに参加した。そこは手話ができる人がほとんどで、活発に手話でコミュニケーションがとられていた。ほぼ一人、手話ができない私はとても心細く、もっと言えば居心地の悪さを感じた。しかし、同時にこの日に感じたものを聴覚障害のある方たちは日々感じているのだろうとも感じた。

聴覚障害は「目に見えない障害」と言われている。見ただけではその生活上の困難さを認知してもらえない。その苦労の一端を知ることのできた得難い経験だった。

柔 道を学ぶ子どもたちとの出会い

約1年前、ネパールで聴覚障害のある人たちと出会った。そこは女子寮で、柔道場があった。当然柔道を練習していた。なぜか?曰く「ネパールでは聴覚障害のある女性が性的な被害に遭いやすい。声が出ないがゆえに」ということであった。つまり護身術の一つとしての柔道である。衝撃だった、そんな現実があるとは。

他方で救いだったのは「柔道は楽しい」という声だった。聴覚障害のある方がスポーツを習う環境が充分ではないネパールでは、きちんとした環境で柔道に打ち込めるといえるのは得難い機会とのことで、笑顔で打ち込んでいた。



柔道を学ぶ聴覚障害のある子どもたちと
子どもたちが暮らす寮

ネ パールには聴覚障害者が多い?

世界では毎年1,000人に1人の割合で聴覚障害のある子どもが生まれているとされている。つまり、0.1%である。そして日本は約34万人なので約0.3%である。ネパールにおける聴覚障害者数は統計によりばらつきがあるが、一説によると1,000人に30人で日本の10倍とも言われる。この違いは諸説あるが、一つには先天性の聴覚障害の割合は同じでも、後天性の中途失聴の割合が多い、との指摘がある。医療へのアクセスに課題を抱えるネパールでは、例えば子どもの頃に高熱などの病気で適切なケアを受けられず、失聴してしまうケースがあると言われている。

聴 覚障害のある方を招聘できないか?

PHD協会の研修事業の原点は岩村先生が体験された「生きることは分かち合うこと、弱き者と」である。誤解のないように言うておくが「弱き者」というのは文字通り弱いということだけでなく、社会的に追いやられ、生きにくくする状況を含む。つまり私たちマジョリティ（多数者）が「弱い」状況にしているとも解釈できる。

日本でも同様かもしれないが、ネパールではそれ以上に教育や就労の機会が少ない状況を目の当たりにし、岩村先生の冒頭の言葉や今井鎮雄初代理事長が神戸YMCAで実施された日本初の肢体不自由児のキャンプを思い出した。先達の想いを受け継ぎ、研修事業を通じて、聴覚障害のある方たちと共に生きることはできないか、と強く思った。

そして、この1年、日本及びネパールで聴覚障害のある方たちとの対話を続け、検討を行ってきた。



聴覚障害のあるウルゲンさん（2025年度第41期研修生）と
手話でコミュニケーションを試みる坂西



カトマンズろうあ協会（KAD）事務所前にて

手話での熱い議論

その対話の中で印象的な場面があった。ある聴覚障害のある方がネパールで新しくカフェをオープンさせた。そこに約20名の聴覚障害のある方たちが集まってくれ、PHD協会の説明をさせてもらい、ネパール手話、国際手話で活発に議論がなされた。手話なので、静かではあったが、その表情や動きは熱を帯びており、それぞれが発言の機会を奪い合うように主張するなど、活気に溢れた場であった。近年、研修生選考の過程でこれだけの熱量を感じることは少ない。

それで思い出したのが、会報155号で特集したラダさんのことだ。40年以上前のネパール、女性が教育を受けることがまだ当たり前ではない時代に、1983年度の研修生として日本に来て学び、帰国後、女性、母親のための識字教育、収入向上等に尽力したラダさん。お話を聞くとその時の熱量もすごいものがあったそうだ。そして、その熱量は長年の活動のエネルギーになったとも聞く。今回の招聘もそうなるのでは、そんな予感がした。

2 025年度研修生として2名が決定！

初の試みゆえに手探りで招聘準備となった。多くの方に助けていただいたが、最終的にカウンターパートとなったのは「カトマンズろうあ協会」、略称KADであった。

KADとの協議を進める中で、「PHDの研修は私たち聴覚障害者にとって、貴重な機会、希望の光だ。だからこそ広く全国の聴覚障害者に情報を届けた上で選考を実施すべきだ」と指摘を受け、実際に広く告知をした上で選考を実施した。

結果、2025年3月に二人の聴覚障害のある方を招聘することとなったので、ここで報告させていただきたい。詳細はP.5、P.6に譲るが、二人とも聴覚障害を抱えながら、人生を前向きに生きている。ぜひ皆さんにもお二人に会っていただきたい。

ちなみにおちゃめなKADのクリシュナ事務局長は「私がもっと若ければ日本に行きたかった」と何度も言っておられた。

研修事業へのご協力をお願いします！

上記のように招聘自体のプロセスは進んでいる。しかしながら、大きなチャレンジとなるので、課題は山積である。研修先は？ホームステイ先は？日常のコミュニケーションをどうするのか。現在、招聘に向け、PHD職員は日本手話を勉強しているが、間に合うのか。手話通訳ができる方にも加わっていただく予定だが、準備すべきことは尽きない。

従来の研修事業も皆さんのお支えなしには実現できるものではなかったが、聴覚障害のある方の研修はよりその色合いが濃くなる。ネパールの方をより良く迎えるために、そして聴覚障害のある方たちにとって「希望の光」となれる研修事業を実現し、その種がネパールで実を結んでいくために、ご協力、ご支援をよろしくお願いします。

※「障害」という表現については多様な意見があると思います。PHD協会でも悩み、多くの方に相談させていただきました。その結果、現時点では文中で岩村先生が言われた「弱者」の箇所の説明させていただいたように当事者の方を生きにくくする社会的な障害が「害」として存在している、そしてそれを作り出しているのは私も知らない、ということ意識するために「障害」という表現を使うこととしました。

2025年3月に来日予定です！
皆さんよろしくお願いします！
ルビー&ウルゲン



NEXT >>

ルビー&ウルゲンの紹介

Urgyen Namdul Tamang

名前：ウルゲン・ナムドゥル・タマン

年齢：28歳

宗教：仏教

民族：タマン

居住地：カトマンズ



研修への想い&研修テーマ

障害者福祉、農業、居場所づくり

「私が日本で研修を受けたいのは、決して自分のためだけでなく、ネパールで困難な状況にある仲間のため」と語るウルゲンさん。日本では聴覚障害のある方たちのコミュニティに参加し、手話の指導方法、教育、就労の状況などを学びたいと願っています。

将来の目標

「帰国後はネパールの聴覚障害者がスキルを身に付け、仕事を得て、自立できるようサポートしたい。また聴覚障害者が集まり、悩みを共有したり、情報交換したりできるような居場所を作りたい」という目標を持つ将来のリーダー候補です。



家庭訪問をした際の写真

ライフストーリー

カトマンズ出身のウルゲンさん。10歳の頃に病気で耳が聞こえなくなり、家族や友達とコミュニケーションをとれなくなって絶望したそうです。その後、約10年間出家し、チベット仏教の僧院で修業生活を送りました。手話の存在を知ったのは、22歳の時と少し遅かったのですが、手話で人とつながれることを知り、希望を持てるようになったそうです。手話を教えてくれたカトマンズろうあ協会（以下、KAD）は「お母さんのような存在」と語ります。

ウルゲンさんは発話ができることもあり、今はKADのメンバーとして、手話通訳や企業との就労マッチングなど他の耳の聞こえない仲間のサポートを献身的に行っています。

Urgyen Namdul Tamang

直筆サイン



出家していた頃のウルゲンさん

研修生紹介

例年よりも前倒しとなりますが、2025年度の研修生の内、ネパールからの2名をご紹介します。PHD協会としては聴覚障害のある研修生は初めてとなりますので、今まで以上にみなさんにご協力をお願いすることも多いかと思ひます。特に研修先やホストファミリー候補となりそうな方の情報、また日本手話ができて協力をお願いできそうな方の情報などありましたら、ぜひご連絡をよろしくお願いいたします。

事務局長 坂西卓郎＝文

Ruby Boyaju

名前：ルビー・ボヤージュ

年齢：23歳

宗教：ヒンズー教

民族：ネワール

居住地：バクタプル



研修への想い&研修テーマ

洋裁、柔道、IT、障害者福祉

手に職をつけたいと願うルビーさん。洋裁は既に6ヶ月のトレーニングを終えており、基礎は学びました。「ネパールの聴覚障害者は仕事の機会が限られています。だから聴覚障害者が自立できるように、日本で学んだ洋裁の技術を教えたいです。そして自分の洋裁の店を持ちたいです」。

将来の目標

「たくさんあります」と語るルビーさん。洋裁を教えて、お店を持つこと、自分の身を自分で守れるように、聴覚障害者に柔道を教えること。また日本では聴覚障害のある子どもの教育



家庭訪問をした際の写真

や障害者福祉についても広く学び、ネパールでの聴覚障害者の地位向上や生活改善につなげたいと考えています。

ライフストーリー

古都バクタプル生まれのルビーさん。生まれつき耳が聞こえず、地元の小学校には通ったものの、良い教育を受けることはできず、当時のことはあまり覚えていないそうです。その後、12歳の時にカトマンズの聾学校に行き、手話を覚えて世界が広がりました。高校の時には聴覚障害のある女子柔道チームの初代キャプテンを務めるなどリーダーシップを発揮しました。高校卒業後、聴覚障害のある方が働くカフェで働くなどの経験をして、現在は、ネパールで唯一の聴覚障害者のための大学で教育を学んでいます。

また先天性の聴覚障害がありながら、苦労して英語の読み書きを習得するなど、学習意欲、新しい挑戦に積極的です。

Ruby Boyaju

直筆サイン



ルビーさんが作ったワンピース

PHD 2024年度研修生レポート

研修担当 内堀友晴＝文

4月～10月 チャチャさん研修先

チャチャさん
インドネシア

将来は協同組合の職員として「道の駅」のような
地域に開かれた場所をつくりたいです！

神戸YMCA学院専門学校
(日本語研修/神戸市)



4/2～
6/4

神戸YWCA保育園
(保育/神戸市)



6/6～
6/18

友愛幼稚園 (保育/神戸市)



6/21～
7/1

寺田農園 (農業/豊岡市)



7/5～
7/15

中野農場 (農業/丹波市)



7/25～
8/1

浜地律地さん (口腔衛生/神戸市)



9/18&
10/15

はらっぱ保育所 (保育/西宮市)



9/19～
9/26

Ti's farm (農業/神戸市)



10/19～
10/21

道の駅にて商品が豊富なおに
驚くチャチャさん



チャチャさんは幼稚園や保育所の研修で給食やおやつ調理を体験しました。給食やおやつが美味しく、また栄養を考えて作られていることに驚きました。子どもたちが作った野菜を給食に取り入れるなど食育についても学び、タベ村でも子どもたちに食事や野菜に関心を持たせたいと考えました。

農業研修では使用する肥料や農薬の量、種類の違いを知り、時にタベ村の現状について画像や動画を見せながら指導者の方々と話をすることで「村の子どもから大人まで安心して食べられる農作物を作りたい」という気持ちが芽生えました。帰国までに村の農業の改善点を整理し、研修を通して得た農薬や肥料に関する知識や経験を村の人に共有していきたいと思っています。

チャチャさんはタベ村では青年団に所属し、積極的に活動していました。タベ村のことを想い、村のために働きたいという気持ちは誰にも負けません。食品加工の研修を通してタベ村の新たな特産品を生み出せるようなアイデアや技術を多く持ち帰り、そして農業研修を通して生産者と消費者にとって安心な農業とは何かを考えていきたいと意気込んでいます。

One Day at 寺田農園

チャチャさんは農業体験を積むのと同時に食品加工についての知識も得たいということで寺田農園さんにお世話になりました。
寺田農園でのとある1日をご紹介します。

5:30

起床、準備

イスラム教のチャチャさん。朝はしっかりと祈りもします。



大豆の種まきの仕方を教えてもらいました！

農作物に栄養が届きますように！

6:00

畦草刈り、朝ごはん

初めての草刈り機に驚くチャチャさん。タベ村にはありません。すぐに使い方をマスターし、サクサクと草刈りを。



8:00

大豆の選別作業、さつま芋畑草取り、里芋畑土寄せ

寺田農園ではトマト・胡瓜・西瓜・大豆・さつま芋等、様々な種類の野菜を育てています。チャチャさんは寺田農園で様々な野菜の育て方を知ることが出来ました。



12:00

お昼ごはん

寺田農園採れたての食材を使った料理をいただきました！農業を使わない食材は身体にいいし美味しいですね、と箸が止まらないチャチャさんなのでした。



タベ村に帰ってからさっそく作ってみたい！

15:00

加工食品作り

・トマトピューレ
・ニンニクチップ
・ニンニク醤油漬け
の作り方を学びました。



タベ村の皆もニンニクが大好き！
タベ村ではニンニクチップを使って料理を作ります！



R
E
P
O
R
T

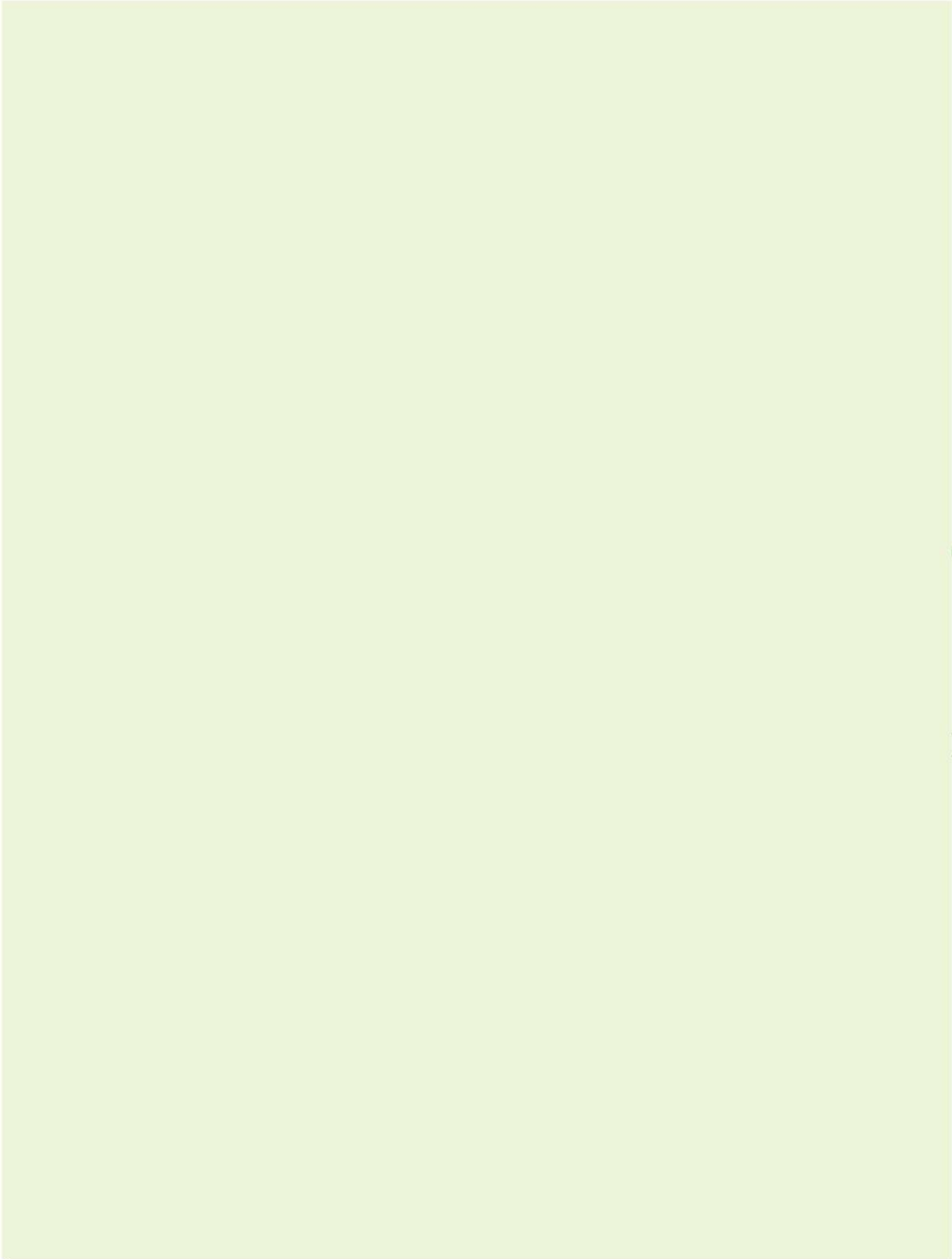
わたしはこれまで「ほいくえん」のうぎょう おおくのばしを おとすべんきょうしました。

日本のうぎょうと せいのうぎょうは ちがいます。やさいのたねのうえかたから、やさいによい ひりょうを おたえる ほうほうまで、日本のうぎょうの やりかたについて たくさん しりました。日本のうぎょうは けんこうのために うやと は すくないです。だから からだ が とても いいと おもいます。

わたしは せいに かえって から日本の うぎょうのうぎょうを やりたいです。できれば くみあい で おかあさんたちと うぎょうのうぎょうを やりましょう。わたしは みなさんに うぎょうのうぎょうと うやとをつかう うぎょう けんこうに どちらが いいか おしえたいです。うやとが たかた けんこうに よくないです。いちばん たいちは けんこうの こと です。まず たべる ぶんだけ じぶん で れんしゅうして そのあと おしえたいです。

チャチャ / インドネシア







居住支援 事業報告

PHD協会では、生活にお困りの外国人の方を対象に居住支援や就労支援、日本語学習支援、生活相談、食料支援などを実施しています。入国間もない難民認定申請者や受け入れ先の契約違反で職場を離れざるをえなかった特定技能の方々など、様々な事情で行き場を失った外国人にサポートを行ってきました。避難生活が長引くウクライナ避難民や第三国定住難民の方々には継続した見守りを行い、必要な支援を実施しています。本稿ではこれらの活動のうち、下記の二つの活動についてご報告します。

1 相談事例の紹介

外国人が抱える課題の背景や要因をより多くの方に知って頂くために、SNSを中心とした相談事例の発信を行っています。今回はみんなのいえに約1か月滞在したインドネシアのワヤンさんの事例を紹介します。

基本情報

名前：ワヤンさん（仮名）

国籍：インドネシア

在留資格：特定技能

支援内容：居住支援、食料支援、就労支援、在留資格変更のサポート



「住まわせてもらっているから恩返しをしたい」と事務所のお手伝いをたくさんしてくれました！

相談までの経緯

2024年8月7日

来日後、茨城県の農家に行くも契約とは違う農家だった。変更申請なしで働くことは違法ではないかと思い働かなかった。仲介業者や登録支援機関に現状を伝えても、応じてもらえなかった。

2024年8月9日

職場を離れ、Facebookで知り合った大阪の知人宅に居候。



2024年8月20日

紹介を受けてみんなのいえ入居。



ワヤンさんが経験した困難

仲介業者

ブローカーから職場を変更する手数料として10万円を請求された。



登録支援機関

インドネシア人の社長に現状を伝えると「鹿児島で働け」とさらに別の勤務先を言われ、取りあってもらえなかった。



現在のワヤンさん

福岡の農家に転職したが、「車を運転できる別の人を見つけた」と突然の解雇を命じられる。家族と話し合った結果、帰国を選択。



お別れのときには「たくさん助けてもらった」と大号泣しながら何度も感謝を伝えてくれました。



2

ニーズに応じた個別支援

ウクライナ避難民アンドリューさん（仮名）

ウクライナ避難民のアンドリューさん（仮名）の就労支援を行いました。アンドリューさんは来日前からウクライナの会社で翻訳の仕事をしており、日本に避難した今も続けています。

「ウクライナに帰れるようになる日を待っているからウクライナの仕事は辞めない」と話してくれたアンドリューさん。翻訳の仕事の続けながら日本での仕事も探したいという相談を受け、就労をサポートしました。



PHD協会事務所でアンドリューさんにヒアリングする様子

難民認定申請中のコンゴ民主共和国の家族

難民認定申請中のコンゴ民主共和国のご家族がみんなのいえに入居しました。食料支援や住居の提供、転居先の内見から引っ越しなど生活全般のサポートを行いました。また、子どもたちの児童館同行、日本語学習支援も行いました。豊かな鉱物資源をめぐる戦争、政治的対立など自国の争いについて、その足元にあるたくさんの犠牲についても何度も語ってくれたことが印象に残ります。どうか彼らのこれからが明るくひらけるようお願いしながら、今後行き場を失った外国人の最後の受け皿として役割を担っていきます。



住まいの内見をする様子



日本語学習の様子

※本事業は赤い羽根ポスト・コロナ社会に向けた福祉活動応援キャンペーン「居場所を失った人々への緊急活動応援助成」第8回の助成を受けて実施しています。



国際交流・協力シェアハウス「みんなのいえ」便り



コンゴ民主共和国の家族を迎えて



うだるような夏がいつまでも終わらない9月のある日、私達はコンゴ民主共和国からの家族をみんなのいえに迎えた。チュニジアに続く2例目のアフリカからの入居者、しかも小さな子どもを含む4人家族である。外国人には慣れているはずの私も微かに戸惑いを隠せない。が、困難な状況をものとしめない家族の明るい人柄や大らかな感情表現はストレートに私達に響いた。そもそも文化の違いとは超えなければならないものではなく、お互いを尊重し思いやる気持ちさえあれば上手く中和されていくものだと思いが付かされた。とうもろこしの粉から出来たパップという彼らの主食を勧められる時、彼らの暮らした国の話を聞く時、私は自分の中に未だ見ぬ国の新たな文化を取り込み、豊かで幸せな気持ちになる。最近苦い緑茶の美味しい淹れ方を聞かれ伝えたところ、とても感謝された。文化の交流とは時に美味しく楽しいものだ。みんなのいえにやって来る入居者が明るく幸せな暮らしを今後も日本で続けていけるよう、末長く文化の架け橋の担い手でありたいと思う。

みんなのいえ施設長 濱宏子＝文



- ・パップ(とうもろこしの粉をお湯で練ったアフリカの主食)
- ・ドド(キャッサバの葉を煮たもの)
- ・チキン



コンゴ民主共和国から来た家族

次代を担う青少年がネパール及び国内で国際感覚を養うための育成事業

※本事業は公益信託兵庫県婦人会館ユネスコ基金の助成を受けて実施しました。

兵庫県の青少年を対象とした人材育成事業としてネパールフィールドワークを8月29日～9月5日に実施しました。参加者の公募を行い、選ばれたのは神戸大学国際協力研究科の博士前期課程で国際人道支援を学ぶ丸山穰さんです。草の根交流型のプログラムとしてネパールで聴覚障害のある子どもたちに日本文化を伝える自主企画を実践してもらいました。また、現地NGOの訪問や当会の元研修生のフォローアップに同行するなどNGOの現場を経験できるプログラムを組みました。元研修生たちを導き手に過酷な山道を駆け上がり到着したピンタリ村では、標高1,000mの大自然を相手に、生身の身体を資本に生きる逞しいネパールの人々と出会いました。これから国際協力の道を歩む丸山さん、ネパールでの触れ合いが糧になるよう願っています。

居住支援担当 田村華奈=文

研修内容

8/30

JICAネパール事務所訪問
元研修生フォローアップと交流

8/31

聴覚障害のある子どもたちの柔道場・寮の見学、
自主企画実践

9/1～9/2

元研修生のフォローアップ同行（ピンタリ村）

9/3

Feminist Dalit Organization（ダリットの人権擁護団体）訪問
Chain For Change（視覚障害者支援の団体）訪問

9/4

Central Secondary School for the Deaf（聾学校）
訪問



交流後には、たくさんの子どもたちが
「来てくれてありがとう」
と手話や文字で伝えてくれました！



日々是 東奔西走

研修担当
内堀友晴

『研修とは？』

研修生の立場で研修について考えてみたことがあります。異国の地で、はじめましての人とコミュニケーションをとって、時には一緒に作業をして。そして外国語で自分の考えや気持ちや質問を伝えなければ

いけない。常に頭はフル回転です。考えるだけで私はクラクラします。

そんな中でも研修生がキラキラと目を輝かせる瞬間があります。どんなときでも子どもたちと関わっているときは楽しそうなミーミーさん。食品加工の現場で、今日は見学だけと言っているのに、作業したいと言ってくるチャチャさん。研修生の根底にある探究心には、驚かされることが多々あります。

研修生にとって研修とは。「私はミャンマーでは人見知りだけど、研修ではそうじゃいけない。ずっと頭の中で考えて考えて疑問を探している」とミーミーさん。「酪農や保育など今まで体験したことのないことを経験できる場。しんどいこともあるけれどたくさん楽しいこともある」とチャチャさん。二人の研修は帰国まで続きます。どうか一つでも多くのことを学んでほしいと心から願い、伴走し続けようと誓う研修担当なのでした。



研修の合間のリフレッシュ



暑い夏を乗り越え、紅葉とご対面



PHD 活動紹介 2024年7月～2024年10月

7月

- 3日 PHD協会 定例会議
神戸YMCA大会実行委員会 参加
- 4日 キフフDIYプログラム同窓会 参加
- 5日 ウクライナ避難民地域共創事業助成金説明会 参加
リハ協カフェ 参加
NGO-JICA協議会 監査
かめのり財団連続オンラインセミナー 参加
- 6日 神戸YMCA大会国際委員会第1回 参加
- 8日 NGO神戸外国人救援ネット運営委員会 参加
甲南女子大学 講義
神戸学院大学 社会防災特別講義Ⅳ
地域と日本語教師の会@川西/川西市社会福祉協議会 アウトリーチ (タブコラ)
- 10日 JANICミニNGOセミナー 参加
- 11日 フードバンク関西
- 12日 PHD協会職員メタファシリテーション研修 (講師:事務局長坂西)
- 16日 HIA 訪問 (タブコラ)
- 18日 神戸町ひと・まち・みらい課アウトリーチ (タブコラ)
神戸町社会福祉協議会アウトリーチ (タブコラ)
- 19日 NGO-JICA協議会NGO会議総会 参加
PHD協会ハラスメント相談員 面談
- 21日 2023-24年度米山記念奨学セミナー 参加
- 22日 川西市社会福祉協議会コンサルテーション (タブコラ)
- 23日 HYOMIC新旧幹事歓迎会 参加
- 24日 篠山ロータリークラブ例会 参加
- 25日 多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー実行委員会 参加
- 26日 兵庫県聴覚障害者協会 手話出前講座
- 29日 PHD協会 定例会議
- 30日 令和6年度国際協力セミナー国際協力の架け橋～自治体、地域、NPO/NGOとの協働の未来～ 講演

8月

- 1日 居住支援シンポジウム 参加
- 2日 兵庫県立聴覚障害者情報センター 訪問
- 5日 「次代を担う青少年がネパール及び国内で国際感覚を養うための育成事業」事前研修 (丸山譲さん)
- 6日 第21回多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー (～7日) 共催
- 7日 令和6年度第1回地域国際化推進アドバイザー意見交換会 参加
- 8日 篠山ロータリークラブ例会 参加
かみかわ国際交流コミュニティ コンサルテーション (タブコラ)
PHD協会 第8回食料配布会
- 9日 JANICランチタイム会員交流会 参加
川西ロータリークラブ例会 参加
- 15日 NGOインターン・プログラムキャリア形成セミナー説明会 参加
- 16日 令和6年度居住支援委員会拡大会議 参加
- 19日 NGO神戸外国人救援ネット運営委員会 参加
- 20日 神戸新聞取材
三田ロータリークラブRYLA報告会 参加
- 21日 HYOGON三役会 参加
NGOスタッフランチ会 参加
NGO等提案型「多文化ソーシャルワーク講座」 参加
- 22日 西宮市居住支援意見交換 参加
- 23日 多文化センターまんまるあかし開所式 参加
神戸NGO協議会 参加
- 24日 大阪YMCA役員等懇談会 参加
兵庫県立聴覚障害者情報センター主催「はじめての手話講座」 参加
- 26日 PHD協会 定例会議
- 29日 ネパール出張 (～9月6日)
「次代を担う青少年がネパール及び国内で国際感覚を養うための育成事業」ネパールフィールドワーク (丸山譲さん) (～9月5日)

9月

- 6日 JICA秋祭り説明会 参加
- 10日 2024年度第1回NGO-JICA協議会 参加
篠山国際理解センター/丹波篠山市市民生活部 アウトリーチ (タブコラ)
丹波市議会議員 小橋さん、広田さんアウトリーチ (タブコラ)
- 11日 N:PIVO NGOスタッフランチ会 参加
地域つながるミーティング@コープミニ御影北店 参加
- 12日 神戸新聞取材
「次代を担う青少年がネパール及び国内で国際感覚を養うための育成事業」事後研修 (丸山譲さん)
- 13日 川西ロータリークラブ例会 参加
- 14日 かめのり財団多文化共生塾 講演
- 17日 山本真記子さん手話講座 参加
- 19日 フードバンク関西
- 20日 神戸YMCA評議員会 参加
- 21日 フィンランド手話イベント 参加
- 24日 大阪YMCA評議員会 参加
- 26日 NGO-JICA勉強会「草の根に提案を検討されている団体の皆様に向けた事例紹介」
- 27日 丹波市医療ネットワーク会議 (タブコラ)
丹波市社会福祉協議会 アウトリーチ (タブコラ)
- 28日 令和6年度「若人の賞」贈呈式 参加
- 29日 ウクライナ避難民とつくるUKRAINE DAY 開催
- 30日 PHD協会 定例会議
NGO神戸外国人救援ネット運営委員会 参加
兵庫県聴覚障害者協会 訪問

10月

- 2日 兵庫県 監査
PHD協会 第9回食料配布会
芦屋ロータリークラブ卓話 講演
- 3日 連合愛のキャンパ贈呈式 参加
まなびと見学会 参加
- 5日 ネパール出張 (～10日)
- 7日 ひょうご・みんなで支え合い基金企画会議 参加
NGOインターン・プログラムキャリア形成セミナー (～11日) 参加
- 8日 明石城西高等学校 講義
- 9日 篠山ロータリークラブ卓話 講演
- 10日 青年海外協力隊兵庫県OB会 講演
川西市社会福祉協議会フードパントリー (タブコラ)
- 11日 川西ロータリークラブ卓話 講演
- 15日 ひょうごコミュニティ財団助成金部会 参加
- 17日 フードバンク関西
- 18日 尼崎北ロータリークラブ卓話 講演
- 19日 ひょうごコミュニティ財団 市民活動大交流会 参加
- 20日 第23回多文化WAIWAI親子デイキャンプ 参加
- 23日 京丹後市国際交流協会アウトリーチ (タブコラ)
- 24日 大阪YMCA評議員会 参加
関西学院大学 講義
- 26日 JICA関西秋まつり 参加
- 28日 PHD協会 定例会議
- 29日 HYOGON兵庫県知事選候補者公開討論会 参加
- 31日 HYOGON賛詞交歓会会議 参加
西区社会福祉協議会コンサルテーション (タブコラ)



ネパール出張にて元研修生と再会

PHD News



連合、自動車総連の皆様へ感謝！

今年も日本労働組合総連合会様から「愛のカンパ」と全日本自動車産業労働組合総連合会様から「福祉カンパ」をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。11月には研修生と訪問し、活動報告をさせていただきました。



日本労働組合総連合会様
「愛のカンパ」贈呈式にて



自動車産業労働組合総連合会様
「福祉カンパ」特別寄贈式にて

40期研修生招聘という節目の1年を迎えました！



2024年10月14日 神戸新聞
「途上国支える人材育て続け」

第40期研修生招聘という節目の1年を記念し、神戸新聞にPHD協会の研修事業について大きく掲載していただきました。40年余りの歴史でこれまでにネパールやインドネシアなどアジア・南太平洋地域から研修生を138名招き、兵庫県内外で農業や漁業、保健衛生などの学びを支えてきました。PHD運動を応援してくださっている皆さまに心より感謝申し上げます。

↓こちらで記事をご覧ください。（※有料記事）
<https://www.kobe-np.co.jp/news/society/202410/0018225427.shtml>

2025年度研修生のホストファミリー募集！

期間：2025年4月中旬～2026年3月中旬の約1年間。（短期相談可）
来日後の日本語研修中（6週間）は毎日、現場研修開始以降は月平均1週間～10日程度。研修内容により変動があります。

経費：当会規定の食費、滞在費をお支払いいたします。その他、交通費、医療費などは基本的に当会が負担します。

応募条件：当会事務所（神戸市長田区）から公共交通機関で1時間以内で通える範囲のご家庭。

手話ができる方
学んでいる方
大歓迎！



2025年度はネパールとミャンマーから3名を招聘します！

手話を学び始めて
〇月×日のPHD協会

濱 初めて覚えた手話は「おはよう」。ビルマ語の100倍簡単！心の中で「イける、楽勝」と思った日は遠い過去。もうすぐ研修生が来日してしまう、、、。

内堀 小指と薬指を折り曲げるのが下手くそ。指文字の「る」と「8」がうまくできず、顔も歪む。きれいに曲げられた時には手話は完璧か？

坂西 約1年前、「今年は手話をがんばる」と年始の目標を立ててたものの、もう1年が終わる。1年早くない？言語と違って、発信よりも受信が難しい。

中村 手話だけでなく「ろう者と同じ場所にいる時の配慮」も学ぶ。終了合図は声ではなく、電気のスイッチ。手だけでなく頭の柔らかさも必要のよう。

井上 手話を学び始めて4ヶ月。なかなか覚えられずに心が折れそうに。それでも「岩村先生」だけは完璧に覚える。これで一年乗り切れるかな？

上から、手首が柔らかい順。

2024年度第40期研修生 帰国報告会のご案内

下記のとおり2024年度研修生たちの帰国報告会を行う予定です。1年の学びや、地域に戻ってからの活動計画などを発表させていただきます。お問い合わせの上、ご参加ください。

日時：2025年3月1日（土）
14：00～16：30（予定）
場所：中央区文化センター
参加費：無料

◆お問い合わせはPHD協会まで◆
TEL：078-414-7750
E-mail：info@phd-kobe.org



2025年度国内研修生募集開始！

2025年4月から2026年3月まで、草の根の人々と共に生きるPHDの活動に関わりませんか？ご興味のある方はPHD協会までご連絡をお願いいたします。